

# 原稿作成要領

2003年4月26日 紀要委員会決定  
2004年2月23日 改定

## 1. 投稿文の使用言語

和文または英文とする。

## 2. 原稿の書き方

### (1) 原稿の書式

- a) 原稿はA4判用紙を縦にして、横書きで、上下3.5cm、左右に2.5cmの余白を残し、ワードプロセッサにより仕上げる。
- b) 和文原稿は1行に40文字、1ページに26行とし、句読点は“,”(コンマ)および“.”(ピリオド)を用いる。
- c) 英文原稿は文字サイズを12ポイントとし、1ページに25行でタイプする。

### (2) 原稿の長さ

原稿の長さは原則として図や表を含め刷上がり10ページ以内とする。刷上がり1ページは和文原稿の2.4枚、英文原稿の2.5枚に相当するので、図や表の数と縮尺を考慮して、制限を守ること。

### (3) 表題等

- a) 表題、ランニング・タイトル、著者名、所属、連絡先を一括して、和文原稿、英文原稿に拘わらず、和文および英文でそれぞれ別の用紙に書く。
- b) ランニング・タイトルは、語間空白部を含めて和文原稿では40文字以内、英文原稿では80文字以内とする。

### (4) 要旨

- a) 和文原稿、英文原稿に拘わらず、必ず本文の前に300語以内の英文要旨(Abstract)をつけ、文献表の後に500文字以内の和文要旨をつける。

### (5) 本文

- a) 本文は英文要旨と別にページを改めて書く。
- b) 術語などの文字指定は各専門分野の慣習にしたがい、単位はSI単位を尊重する。
- c) 誤りやすい文字は注意して書く。特に、英字の大文字と小文字、英字とギリシャ文字、数式等における添字(上付き、下付き)などは明瞭に識別できるように書く。変数には、イタリック体を使用する。
- d) 本文中に文献を引用するときは、著者の姓と年号で表す。例えば、著者1名の時はOrido (1985)、折戸 (1985)、(Orido, 1985)、(折戸, 1985)など、2名のときは、Orido and Miho (1986)、(折戸・三保, 1986)、など、3名以上のときはOrido *et al.* (1987)、(折戸ほか, 1987)などのように書く。なお引用する文献が複数の場合は(Orido, 1986; Miho, 1987)、(折戸, 1986; 三保, 1987)などのように書く。
- e) 註は該当個所の右肩に<sup>1)</sup>のように指定し、本文と文献表の間にまとめて、註1)のように対応する番号をつけて書く。

### (6) 図および表

- a) 図は原則としてA4判の用紙に、そのまま製版できるように黒色で明瞭に描く。印刷される図の大きさは、仕上が寸法が左右14cmか7cmのいずれかになるので、図の大きさ、特に図中の数字、符号などは印刷時の縮小を考慮して大きめに描く。動植物の図などは、図中にスケールを記入しておくことが望ましい。図表中の文字は原則として英字とする。図表には整理の便宜上、隅に鉛筆で著者名と図表番号を記しておく。
- b) カラー図面や写真は、原稿の内容説明に必要不可欠な場合に限り使用することができる。費用は著者の負担とする。
- c) おなじ内容のことを図と表に重複して示さない。
- d) 本文が和文、英文のいずれの原稿であっても、図表の説明文は英文を用いる。図の場合は別紙に順を追って書き、表の場合は表の上部に書き込み、本文中には書かない。本文の右欄外に図、表を挿入するおよその位置を朱筆する。本文中で図、表を引用するときは、Fig. 1, Figs. 1 and 2, Figs. 1~3, Table 1, Tables 1 and 2, Tables 1~3のように書く。

(7) 文献表

- a) 文献は別紙に著者の姓のアルファベット順に並べる。番号は付けない。
- b) 雑誌の場合は、著者名(筆頭著者は姓を先に)、西暦年(カッコでかこむ)、表題、雑誌名、巻(号)、最初ページ-最終ページの順に記す。
- c) 単行書の場合は、著者名、西暦年(カッコでかこむ)、書名、出版社名、所在地、総ページ数の順に記す。
- d) 雑誌名、書名は頭文字を大文字で書く。
- e) 雑誌名の省略は原則として Butterworths 発行の World List of Scientific Periodicals による。これに記載のないものは慣例による。
- f) 英文原稿に和文の文献を引用するときは、文献表の記載にあたり (in Japanese with English abstract), (in Japanese) などと付記する。英訳のない論文表題は投稿者が英訳して [ ] でかこむ。

(例)

A) 雑誌

- 上久保 正 (1958): ビタミンB12の微生物学的定量における抽出法についての2, 3の知見. ビタミン, 14 (1), 33-36.
- Kanawa, A., M. Ichikawa and T. Imai (1986): [On the data processing of daily mean value of oceanographic data.] Bull. Coastal Oceanogr., 28, 179-187 (in Japanese).
- Kurokawa, T (2000): New Ocean and atmosphere. Umino Kenkyu, 8, 54-63 (in Japanese with English abstract and figure captions).
- Menzel, D.W. and J.P. Spash (1964): Occurrence of vitamin B12 in the Sargasso Sea. Limnol. Oceanogr., 7(2), 151-154.
- 丹羽 晃・松村 宏・坪井 匡 (1979): スポーツ参加の動機に関する要因の分析, 体育学研究, 27(1), 38-44.

B) 単行本

- Hilditch, T.P. (1956): The Chemical Constitution of Natural Fats. Wiley, New York, 451pp.
- Kriss, A.E. (1963): Marine Micro-biology (Translated from Russian by Shewan, J.M. and Z. Kabata). Oliver and Boyd, Edinburgh, 400pp.
- 松原利夫 (1955): 海上衝突予防. 石崎書店, 東京, 550pp.
- 松橋通生 (1976): 基礎生化学実験法 (阿南功一・紺野邦夫・田村善蔵・松橋通生・松本重一郎編). 6, 丸善, 東京, 600pp.
- Rosen, D.E. (1973): Interrelationships of higher euteleostean fishes. 391-513, *In*, Greenwood, P. H., R.S. Miles and C.P. Patterson eds., Interrelationships of Fishes. Academic Press, London.
- Wilkinson, J.H. (1969): イソ酵素 (守屋 寛・吉田光孝・藤本幸男訳). 丸善, 東京, 350pp.

(8) 英文原稿と英文要旨は英語の母語話者による事前の校閲を受ける。

(9) 最終原稿は表題等, 英文要旨, 本文, 註 (ある場合), 文献, 和文要旨, 図の説明, 図, 表の順にそろえ, ハードコピー1部にFDまたはMOを添えて提出する。